＜一般社団法人福島県法人会連合会会長賞＞

「目に見えない安心と税金」

伊達市立伊達中学校　３年　佐々木　琉愛

「税金」という言葉を聞いて、みなさんは何を思い浮べるのだろうか。多くの人が一度は耳にしたことがある「増税」や「国民の負担」といったマイナスの言葉を想像するかもしれない。実際これまでの私も、税金についての詳しい仕組みや役割をほとんど知らなかった。そのため、「税金」という言葉を聞いても、あまり良いイメージが湧かなかったのが本音だ。また、私の中で税金は、「私たちの暮らしを苦しめるもの」という印象が強かった。そんな私の考えが変わるきっかけになったのが、学校で行われた「租税教室」だった。この教室を通して、私は税金が本当は何のために使われているのか、私たちの暮らしにどう関わっているのかを真剣に考えてみたくなった。

租税教室の後、私はある１つの疑問を持った。それは、「もし、私にお金がなかった場合、救急車には乗れないだろうか」ということだ。例えば、命の危機に関わるようなことで、救急車に乗って病院まで行ったとする。でも、もしそれが有料ならば、お金がない人はどうすればよいのだろうか。救急車に乗った後のことを考えると、乗りたくても乗れない状況になってしまうのではないか。それでは、助かるかもしれない大切な命が助からなくなってしまうかもしれない。それはとても恐ろしいことだし、絶対にあってはならないことだ。

気になって調べてみると、海外では救急車に乗るためにお金がかかる国がほとんどらしい。何万円も払わなければならない

のが普通だと知って、私はとても驚いた。しかし、日本は違う。私たちが救急車に乗るためにお金を払う必要はない。でも、それは決して当たり前のことではないのだ。国民全員がきちんと税金を払っているからこそ実現できることなのだ。

税金によって支えられているのは、救急車だけではない。私が住んでいる伊達市では、18 歳まで医療費が無料だ。私たちが当たり前に使っている「教科書」や毎日通っている学校の校舎も全て税金によって作られている。また、誰もが利用している「道路」や「信号機」、「図書館」、それに「警察署」や「消防署」、お年よりを支える年金だってそうだ。もしも、これらが全て有料ならば、お金がない人は安心して暮らすことができなくなってしまうはずだ。

そんなことを考えると、私は税金が無くなってほしいとは絶対に言えない。私の暮らしや安全は税金によって守られている。普段、当たり前のように受けているサポートも、目には見えないけれど、すべて税金のおかげなのだ。そう考えると、税金は私たちの暮らしを支えてくれる「なくてはならない存在」なんだと思った。これからは、税金に感謝の気持ちを持ち、私も大人になったら、きちんと税金を納めていきたいと思う。